中学校第３学年　技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

学習指導者　高松市立古高松中学校　公文　唯

1　題材名　「自立した消費者となるために」

2　題材について

現代社会において、SNS での情報収集やネット通販の利用をはじめとする消費行動は、中高生にとって身近なものとなっている。その一方で、若年層を狙った消費者トラブルは多様化・巧妙化しており、成年年齢の引き下げも相まって、自立した消費者として適切な判断と責任ある行動ができる能力の育成が強く求められている。

本題材は、中学校学習指導要領　内容「C　消費生活・環境」の(1)のア（イ）に基づき、売買契約の仕組みや消費者被害の背景、およびその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできることをねらいとしている。単に知識を得るだけでなく、消費者の権利を理解し、自らの行動に責任をもって安全に意思決定できる実践的な態度を養うことができる大変重要な題材である。

3　題材の目標

○　購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

○　物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につける。

○　よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

4　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価･改善し､考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	・よりより生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5　学習指導計画（総時数８時間【本時５/８】）

○　自分や家族の消費生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（１時間）
○　多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理・・・・・・・・・・・・・・・（２時間）
○　物資・サービスの選択・購入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（２時間）
○　消費者としての責任ある消費行動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（３時間）

6　重点とする授業改善の視点

生徒の「自分はだまされない」という過信に対して、クラスデータや家族へのインタビューを活用して消費者被害を「自分事」として捉えさせ、深い気づきへと導く。さらに、トラブルの背景を多角的に分析して悪質業者の手口を「見抜く力」や勧誘をきっぱりと「断る力」といった批判的思考力を高め、学んだ知見を今後の消費生活において主体的に生かそうとする「実践的な態度」を育むことを最重点の視点として展開する。

7　本時の学習指導

⑴　目標

・消費者の心理を利用した手口の仕組みを多角的な視点から捉え直し、自分の消費行動と関連づけながら、被害を防ぐための適切な行動を考え、工夫することができる。

⑵　学習指導過程

（学びの手立て…★楽しさ、●対話的）

学習内容及び学習活動	教師の支援
1　「消費者トラブル危険度チェック」を個々で実施し、クラス全体の傾向を確認する。	★「自分は騙されない」という認識を見つめ直させるため、クラス全体のデータを視覚的に提示し、悪質業者の手口に対して誰もが心理的な隙が生じ得るということを伝える。
2　学習課題を確認する。	・課題への興味をもたせるために、診断結果の「心理」が、のちの展開で悪質業者が利用する手口と直結していることを予告する。 ・「自分事」として捉えた危機感を、「では、どのようにしてトラブルは起きるのか」という本時の課題への探究心につなげるよう声をかける。
【学習課題】消費者トラブルはどのようにして起こるのだろうか。 その仕組みに気づき、未然に防ぐためにはどうすればよいだろうか。	
3　事前課題をもとに、事例を整理・共有する。	・事前課題で実施した「家族へのインタビュー」の結果を報告し合うことで、より身近な事例に注目させ、当事者意識の継続を図る。 ●トラブルの全体像を正確に把握できるように、集まったインタビュー内容から「誰が」「何をして」「どんな被害に遭ったのか」というフレームに沿って事例を整理するように指示する。
授業づくりのポイント 4　トラブルが起こった背景・原因を３つの視点から多角的に考察する。 ①　消費者側の原因（心や行動） ②　事業者側の手口（心理の利用） ③　社会環境の変化（技術や仕組み）	・単なる不注意以外の理由を考えさせるために、教師からの「なぜこのトラブルが起こってしまったのだろう？」という発問をする。 ・自己責任論（消費者側の原因のみ）に偏らないよう、「事業者はどんな罠を仕掛けていた？」「スマホが普及した現代だからこそ起きた理由は？」と３つの視点のバランスがとれるように声をかける。 ・導入のチェックを振り返らせ、「みんなが『限定に弱い』と答えた心理を、業者はどう突いてきている？」と具体的にアプローチする。 ・「事業者側の手口」を考える際、導入の危険度チェックで出た「焦る心」「信じ込みやすい心」がどう利用されているかを結びつける。
5　全体で分析結果を共有し、整理する。	・各グループの意見を発表し、クラス全体で３つの視点から原因を黒板や画面に構造化する。
授業づくりのポイント 6　トラブルを未然に防ぐために大切なことは何か考え、クラス全体で共有する。	・「うまい話」や「焦らさせる場面」において批判的思考を働かせられるよう、導入の危険度チェックを思い出し、「今、自分の心理が狙われているのではないか」と客観的に捉え直す声かけを行う。 ●一人ひとりが考えた「大切なこと」を多様な視点から吟味し、トラブル対策への理解を深めるため、全体で思考を共有し合う活動を設定する。

⑶　評価を行う学習活動、観点【評価の方法】

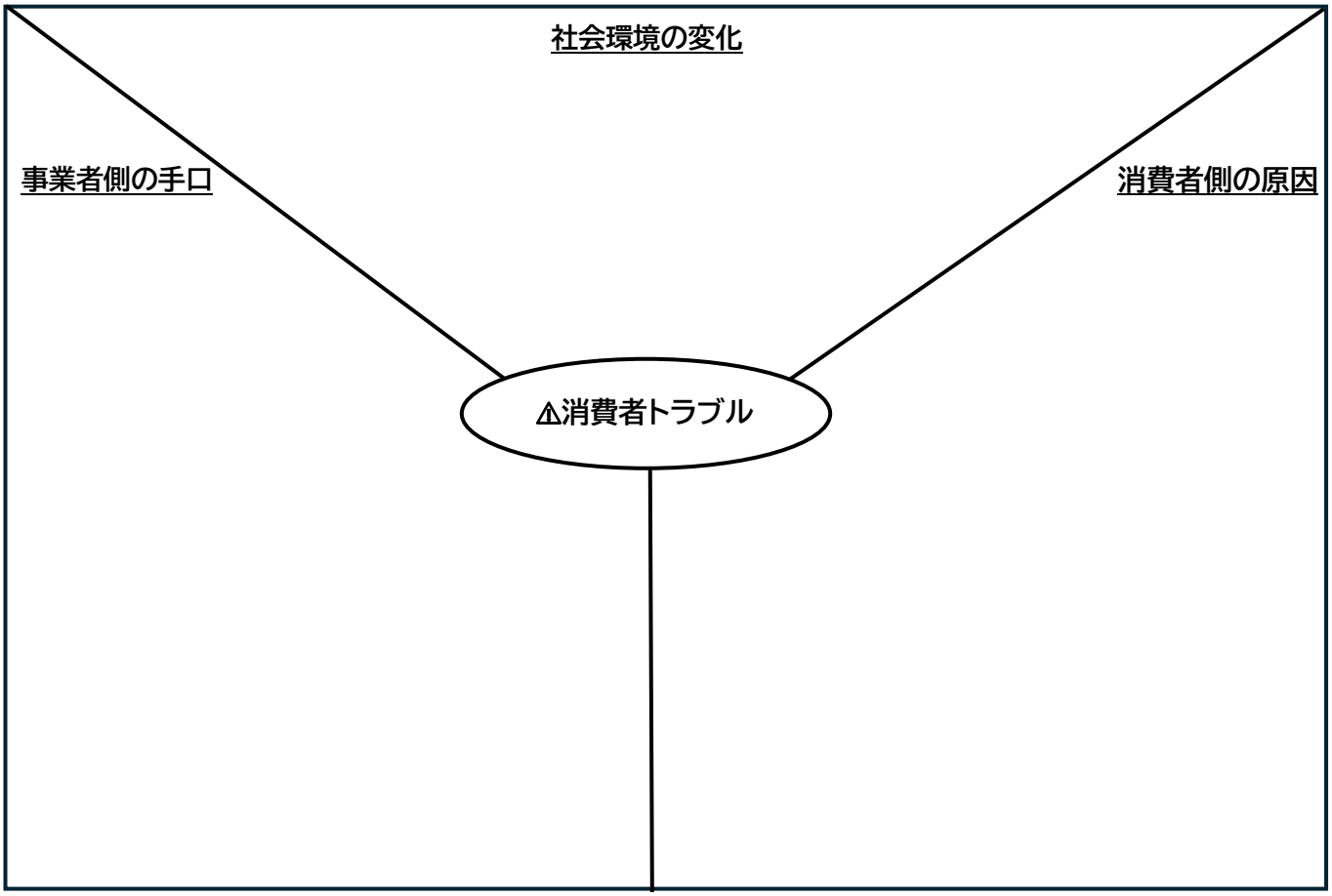
・　6　思考・判断・表現【ワークシート】

消費者トラブルの背景や原因を多角的に分析することを通して、今後の消費生活において消費者トラブルを未然に防ぐために、どのようなことができるか考え、工夫している。

消費者トラブルはなぜ起こり、どうすれば未然に防ぐことができるのだろうか。

3年(　　)組(　　)番（　　）

〇トラブルが起こった背景・原因を考えよう



〇全体で共有して気付いたこと

〇トラブルを未然に防ぐために大切なことは？